

平成 20 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 藤本寿彦

最終学歴	1978年明治大学大学院修士課程文学研究科日本文学専攻修了
取得学位	文学修士
所属学会	日本近代文学会
現在の専門分野	日本近代詩研究
研究課題	昭和期の詩、短歌、俳句研究

【研究上の特記事項】

【教育上の特記事項】

【社会的活動】

日本近代文学館図書資料委員 教員向け講座講演1回(奈良大学)
丸山薫少年少女文学賞(山形県西川町)実行委員会顧問

【学内活動】(学内職歴を含む)

文学部入試委員 センター入試委員 文芸部顧問

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 周縁としてのモダニズム	単著	平成21年2月	双文社出版	大正末から昭和20年代までのモダニズム詩人を対象にして、その詩表現を分析することで、既存の日本現代詩史の見直しをおこなった論考。
(学術論文) 「女流随筆家」の誕生－森田たま『もめん随筆』の世界－ ポエジイ運動下における短歌革新－前川佐美雄歌集『植物祭』を中心に－ 「銃後の京都 文学特集号」の紹介と考察 木股知史著『画文共鳴－『みだれ髪』から『月に吠える』へ』	単著 単著 単著 単著	平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年11月	始更 始更 始更 日本近代文学(日本近代文学会機関誌)	男性の文芸ジャンルだった「随筆」を女性の表現世界にした森田たまの戦略とジャンル意識を分析している。 百田宗治や春山行夫が提唱したポエジイ運動が詩壇にとどまらず、昭和初年代の文壇全体に波及していた状況を踏まえ、前川がこの潮流の中で、いかにして短歌革新を成し遂げようとしたかを、表現の読解を通して明らかにした論考。 昭和18年11月に京都市が京都出身の兵士や銃後の家庭向けに発行した「銃後の京都 文芸特集号」は、当代に多く発行された国威発揚を目的とした刊行物と異なる。淀野隆三が編集の任に当たった同号には、京都在住、あるいは京都にゆかりのある文学者が顔を揃えている。戦時色が排除された誌面作りと、それを可能にした京都らしい側面を指摘した考察。 近年、流行している文化研究の手法で、浪漫主義から象徴主義の代表作を横断する文学表現と絵画表現の問題を論じた著書に対する書評。キーワードである「イメージ」の定義の曖昧さや論証不足、無批判に他領域の業績に依存した上での論考に疑問を呈している。